

●大事な体のコトを考える●

# 日々の健康医学講座



今号担当  
今井内科胃腸科クリニック院長  
今井 英人

第615回

## 最近の胃カメラについて 経鼻内視鏡をどう存じますか？

医療技術の進歩により、従来にはなかった新しいタイプの胃カメラが登場しています。

みなさんは、胃の内視鏡検査（胃カメラ）を受けたことがありますか？胃癌の多い日本人にとって、胃の中を細かく観察することのできる胃カメラは無くてはならない重要な医療機器ですが、検査中の苦痛が多いのも事実です。ところが、最近では技術進歩のおかげで胃カメラもずいぶんと変わってきています。今回は最近の胃カメラ事情についてお話しします。

### ①経鼻内視鏡検査

当院でも最近始めたのですが、文字通り内視鏡を口からではなく鼻から挿入する方法です。内視鏡の太さは先端で5ミリメートル台と、通常の内視鏡と比べ半分くらいの細さにすることができたため、可能になった検査方法です。この検査方法の利点は、まず喉への刺激が少なく、非常に楽だということです。受けた人によって感覚は違うでしょうが、内視鏡が細いことと挿入経路が口からと比べ、より直線に近いため喉でオエツとなる感覚が少なくなるのです。それともう一つは、口が空になるため、話をしながら検査を受けること

ができること。内視鏡の画面を見ていて疑問に思ったことをその場で質問できるのは、検査の結果を理解する上でとても有用なことです。一方、欠点としては、内視鏡が細くなった代わりに画質が悪くなってしまうことや、鼻血が出るケースがあることなどですが、通常に検査を行う上で大きな支障となることはないようです。楽な方がよいという方は多いと思いますので、今後、経鼻内視鏡検査は検診目的の胃カメラとして、多くの医療機関で利用されることになるかもしれません。

### ②高画質内視鏡

カメラを細くする代わりに、より高画質な画像が得られるように改良された胃カメラです。ハイビジョン画質での検査や画像を顕微鏡のように拡大して観察ができる検査がこれにあたります。このような検査のおかげで、より細かな病変を正確に診断することが可能になりました。また、この検査で使用する内視鏡も一昔前のものとは比べればずいぶん細くなっています。

### ③胃や腸の腫瘍に対する内視鏡的切除

従来から内視鏡を使った腫瘍切除は行われていましたが、近年では大きな腫瘍を内視鏡で切除するときに、一括で切除して治療の具合をより正

確に評価することが可能となりました。このため、より大きな腫瘍が内視鏡で治療できるようにもなっています。（ただし、腫瘍が何でも内視鏡で治療できるわけではないので、きちんと術前検査をする必要があります。）

### ④カプセル内視鏡

カプセルの薬のような内視鏡を飲み込むことで行う検査です。内視鏡検査時の不快が全くなくなる検査方法で、改善すべき課題はまだ多いですが、欧米では通常の臨床の場で実際に使われており、未来の内視鏡といえます。

※

このように、胃カメラも通常の検診ではより快適に、精密検査や治療ではより正確にと、状況によって使い分ける時代になってきています。みなさんも自分にあった検査方法で、より快適で正確な内視鏡検査を受けていただければと思います。詳しくはお近くの医療機関にお問い合わせください。



●内科●胃腸科●小児科●老人科●人間ドック併設

医療法人

## 今井内科胃腸科クリニック

院長 今井 英人

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘5丁目27番地

TEL&FAX 052-771-3322(代)

